

入選

親切イコール笑顔

千葉県 小栗原小学校

5年 佐久間彩羽

私は、夏休みに家族で沖縄に行きました。沖縄には、家族や友達といっしょに来ている人がとても多く、どの人もきれいな海やシーサーを背景に、楽しい思い出を残そうとたくさんの写真を撮っていました。しかし、全員で写るためには、自撮り棒を使わないとうまく撮れません。手をのばしてがんばって撮ろうとしている人もいましたが、写真がぶれたり、けい帯電話を落としたりする危険もあるので、私はその様子を大変そうだなとながめていました。

すると、横にいたお母さんが、

「写真を撮りましょうか？」と、知らない人に声をかけました。その人たちは、「ありがとうございます！」と言って写真を撮ってもらっていました。私はたのまれてもいないのに、自分から知らない人に声をかけていて、お母さんはすごいなと思いました。お母さんが撮ってあげた人たちは、私たちの写真も撮ってくれました。私は自撮り棒を持っていましたが、家族写真を撮ってもらえてうれしいな、と思いました。

その後も、お母さんはどこかへ移動するたびに、旅行客の人へ声をかけて写真を撮ってあげていました。「どこから来たんですか？」とか「楽しんでくださいね。」など話していて、写真を撮ってあげるだけでもすごいのに、知らない人と笑顔で話しているっていいなと思いました。このやりとりを見て、私も旅行中に知らない人にも声をかけることができたらいいな、と思いました。

旅行最終日、私が海から出て、シャワーをあびていると、外国の方が「シャワーを使えない」と困っていました。私は英語が話せないので、100円を見せて入れるジェスチャーをすると、悲しい顔で手をあらうところで体をあらっていました。

私は、100円で使えるタイマー分のシャワーを使い切らなかったので、勇気を出して自分の使っていたシャワー室まで外国の方の手を引き、「まだあまっているから使ってください」というジェスチャーをしてあげました。その人は、手をひいたときはびっくりしていたけれど、「ありがとう」というジェスチャーを返してくれました。お母さんが、

「言葉が通じなくても声をかけてあげたのって、すごいよ。日本人はやさしいなって思ってもらえたらいいよね。」と言ってくれました。

私は、親切というのは「やらなきゃ」と思ってやるものではなく、気づいたときに行動できるということなのだと思います。気づいたときに「はずかしい」とか、「やれるかな」とか思わず、すぐに行動できるような人でいたいと思いました。